

国民の世論と運動で「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年3月1日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

まともなくらしを保障しろ！1000人集会
みんな集まろう！困っている人 これから困るかもしれない人



明日(2日)2時 札幌市教育文化会館です

いよいよ、3.2集会も明日になりました。子どもも、若者も、高齢者も、女性も、男性も、生活が大変になっています。集会では、参加者を代表して、5人（生活保護利用者、年金者、非正規労働者）が訴えます。

生活保護基準や年金の引き下げなどの社会保障の改悪、低賃金・過密労働を促進する規制緩和、T P P参加など、住民をさらに苦しめる政策はやめて、全員が、まともな暮らし、人間らしい暮らしができる社会に変えることが求められています。

反貧困ネット代表の宇都宮健児さんもゲストでお話します。集会後はデモも予定しています。悪天候が予想されますが、今困っている人も、これから困るかもしていない人も、是非、誘い合って参加しましょう！

なお、集会を代表して5人が、3月6日、厚生労働省と交渉、国会議員への要請を予定しています。

青年3人がホームレス状態 親からの相談も 国保料・医療費大変 反貧困ネット北海道 労働と生活の総合相談会

2月25日、反貧困ネット北海道が、札幌・エルプラザ3階ホールで、「労働と生活の総合相談会」を行いました。当日はテレビでも紹介されたことあり、15人が相談に訪れました。生活相談が一番多く8件、法律相談5人、心の相談や医療相談もありました。



28歳男性、31歳男性、41歳女性の3人は、所持金がそれぞれ0円、700円、3000円とほとんどなく、ホームレス状態でした。Aさんは、うつ病で仕事をやめ、知人の車で車上生活していました。2月1日に生活保護の申請をしていましたが、決定期限の14日過ぎ、25日たっても決定されていませんでした。区役所からは、親と相談していない、就労していないことなどが遅延の理由だといわれたそうです。早速、相談員とともに区役所を訪問し、対応の改善と早期決定を申し入れました。

20.30代	4人
40.50代	6人
60代↑	5人
男性	8人
女性	7人

一方、うつ病や引きこもりなどで働いていない子を心配する

親からの相談も相次ぎました。「うつ病で休職していたが傷病手当金が切れた。経済的に支援してきたが、いつまでも支えられない」「息子は、パソコンの派遣労働をしていたが、仕事に疲れ、現在無職で引きこもり気味で同居している。自分も将来どうなるかわからない。不安」との相談もありました。

また、収入が不安定で国保料を滞納し、2年前から短期証が発行されている女性から医療相談がありました。何度も納付催促が行われ、精神的に苦しくなっている。腎臓病で定期的に受診が必要ですが、1回8000円かかることもあり、中断しがちで「無料低額診療」について聞きたいという相談内容でした。

生活に困窮する方が年代を問わず広がっています。反貧困ネット北海道では、働く労働者も参加しやすいように、5月11日(土)にも相談会を予定しています。

今後の主な予定

- 3月26日 「なんでも電話相談」 SOSネット北海道が行います。
- 4月2日 チ・カ・ホで 「生活保護」を中心に宣伝行動
- 4月27日 14:00~ ナショナル・ミニマムを考える学習会 「人間らしい生活を求めて」 講師 金澤誠一氏 場所: 佐藤水産ホール